

平成28年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属天王寺中学校

1 附属天王寺中学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺中学校

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員480人(1学級40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

478人(男子239人・女子239人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 19人(うち, 臨時的雇用2人,),
非常勤講師 7人
事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人, 臨時用務員(用務員)1人)

2 附属天王寺中学校の特徴

質実剛健の校風のもと, 生徒一人ひとりがお互いの多様性を尊重し合う中で, 主体的に協同的な学びを展開していくことを重視し, 将来の市民社会をリードしていくための“生きる力”の育成をめざしている。
天王寺型中高連絡進学に基づく6年一貫教育の研究と実践を続けている。

3 附属天王寺中学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となり, 教育の理論と実践に関する研究を行うこと。
- (2) 教育に関する理論を実践し, 授業や研究会で実証すること。
- (3) 大阪教育大学の教育実習機関として, 効果的な実習活動を行うこと。
- (4) 大阪教育大学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属天王寺中学校の学校教育目標

- ・ 正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心を持ち, 透徹した判断力を養う。
- ・ 強固な意志を持ち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。
- ・ 他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- ・ 社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属天王寺中学校の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。特に、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動をする。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属天王寺中学校の平成28年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 正義を愛し、真理を追求する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、整理する。特に、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) ・生徒の学力向上と、自主的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。	① 自由研究と高校の総合学習の連携を図る。(教務部)	自由研究の優秀者が高校において発表の機会を持つ試みを行った。	自由研究と高校の総合学習の連携を図る具体的な組織が必要である。	B		A	
	② 電子黒板と無線LANの接続を生かして、iPadも含めた新しい教育方法の開発をサポートする。(庶務部)	電子黒板と無線LANを生かした方法は、各教科で活用が進んでいる。iムービーなども使われ始めている。	情報機器は、教員はもちろん中高生の利用も活発になってきている。指導者がメンテナンスをしっかり理解する必要がある。	B		A	
	③ 基礎基本の定着と、それを生かした論理的思考力の養成をめざし、主体的に学習に取り組む力が身につくよう授業	単元の初めに、それを学ぶメリットを説明してから授業を進めていく工夫をした。	予想以上に時間のかかる作業であった。内容の充実と進捗状況のバランスを改善していきたい。	B		A	

	を工夫する。(数学)					
④	<p>集団での学習活動におけるコミュニケーション力向上と生徒の自立的な学習を促すよう、共通するテーマを教科内で設定する。教科会場で、各教員の授業の指導案検討などを行い、日常の学習活動に対する工夫や取り組みを共有する。(理科)</p>	<p>「学びの自立をめざす評価の工夫と改善」というテーマを設定し、校内のみならず小中高研究部会等でも議論することができた。</p>	<p>教科としての重点目標を達成していく上で、教科会が重要な役割を果たすと考える。教科会の持ち方、その中身を吟味していく必要がある。</p>	B	A	
⑤	<p>言語活動やアクティブラーニングを取り入れた授業を展開し、生徒の日常生活における主体性を確立させる。(家庭)</p>	<p>言語活動を基盤とし、思考力・判断力を養うために、アクティブラーニングを実施した。中高で連携しながら進めることができた。 大学の紀要などにも研究成果を発表することができた。</p>	<p>文部科学省から教科横断型授業が提唱されている。来年度以降は、早期に計画を立てて進めていきたい。</p>	A	A	
⑥	<p>ペアワーク、グループワークを積極的に取り入れて、生徒間の自立的協働を促す。 iPad等を活用して、音声面に意識を向けさせながら、文で表現する力を身に</p>	<p>ほぼ毎回の授業でペアワーク、グループワークを取り入れ、それらの活動の中で生徒同士が教え合ったり学びあったりする姿が見られた。 アプリを活用し、ペアワーク等を通して、主に発音の改善を試みた。</p>	<p>さらにクラス全体が互いに学び合うことができるようなくみを考え、よりよい環境づくりを模索し、活動に変化をつける必要がある。 3年間の見通しを具体的に考える必要がある。</p>	A	A	

	つけさせる。(英語)							
(2) ・将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。 ・生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。	① 生徒と教員の連携や相互理解のために、生徒全員にアンケート面談を行う。(生徒指導部)	6月にアンケートをとり、その後、全員と面談を行うことにより、生徒の不安を事前に察知することができた。	生徒会活動で生徒の自主的な活動を促したが、スケジュール調整が難しかった。	A	難しいことだとは思いますが、スケジュールを調整して、生徒の活動時間を確保してほしい。	B		
	② 自分の将来に数学がどのような形で関わるのかを生徒一人一人に考えさせ、その結果に合った授業実践を行う。(数学)	日常生活の中で数学が使われている場面を考えさせ、学ぶ内容についても考えさせた。また、将来の自分の進路に必要なことがらを考えさせるために、論理的に考える力を育成する授業を行った。	すべての学年に対して一貫した評価基準を持つことができなかった。		B	どれくらい達成できたかを判断できるようにする必要がある。	B	
	③ 生徒が、将来自ら目標を設定し、進路を切り開くことができるよう、本当の力をつけさせることを重視する。授業で多くの実験実習が行われることから、安全確保に関してすべての教員が常に意識して取り組む。(理科)	日常の授業に加え、磯観察などで教室を離れての実習の機会を持つことができている。実物に触れることで、科学の知識の再確認だけでなく、さまざまな問題のとらえ方、その解決方法を考えることなど、将来必要となる力をつけるよい機会となっている。	日常の授業でも多くの実験が行われているが、大きなけが等が発生することもなく安全に行えた。		A		A	
	④ 作品に真摯に向かうことで、「生きる」ことを感じ、想い、表現する方法を身につける。(芸術)	自己に内在するものを表現してアウトプットすることを、専門家の意見も取り入れながら追求した。	心の教育を担える科目として、より専門的な知識を学ぶ。		A		A	

<p>(3)</p> <p>・附属校として求められる研究テーマを設定し、その取り組みと成果を発信する。</p> <p>・生徒の対外的な成果発表を支援する。</p>	<p>① 評価の工夫・検討を進めながら、国語科としてのアクティブラーニングについても取り組み、研究会での提案を試みる。(国語)</p>	<p>教科としての力の獲得のために、どのような面でアクティブラーニングの考え方を取り入れられるかを検討し、その上で実践を行うことができた。</p>	<p>アクティブラーニングをどのように考えていくか、どのように取り組んでいくかの検討が必要である。</p>	A		A		
	<p>② 「学びの自立をめざす評価の工夫と改善へアクティブラーニングって何?～」をテーマとし、教育研究会で実践発表を行う。(数学・理科・芸術)</p>	<p>アクティブラーニングの効果的な活用について、公開授業と研究発表を行った。</p>	<p>今後も研修や授業研究を継続する。</p>		A		A	
	<p>③ 知識や理解だけでなく、思考や判断の評価についても妥当な基準を示し、主体的に学習に取り組む環境を培う。(社会)</p>	<p>「リテラシー教育」を主眼におき、さまざまな情報から必要なものを捨選択し利用する視点を、継続して与え続けることができた。</p>	<p>発表の機会が少なく、外部からの意見を聞くことができなかった。</p>		B		A	

6 附属天王寺中学校の平成28年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 正義を愛し, 真理を追求する旺盛な向学心をもち, 透徹した判断力を養う。 強固な意志を持ち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。 他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための, 教育環境を整備・充実させるとともに, 生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) ・生徒の学力向上と, 自主的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し, 個々の力量を十分に発揮させる。	⑦ 基礎基本の定着とそれを用いた論理的思考力の養成を目指し, 主体的に学習に取り組む力が身につくよう授業を工夫する。(数学)	ICT 機器を活用して生徒の理解を深めるとともに, 実際に ICT を使わせて主体的に学ぶ場を作った。	予想していたよりも時間のかかる作業であった。そのため当初に計画していたよりも進度が遅れた。	B		A	
(2) ・将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ, その実現に向けた支援を行う。	① 早い時期から生徒の進路を把握し, 適性に応じた進路の確認を行う。(進路指導部)	進路部員の特性を生かし, 芸術・海外など特定分野の進路についても指導した。	担任と進路担当で進路希望情報を共有するしくみを確立し, さらに生徒に有利な情報を共有できるようにしたい。	A		A	

<p>・生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。</p>	<p>② 老朽化している体育施設の補修や器具等の安全チェックを行う。物品の管理、整理整頓を行う。(保健体育)</p>	<p>体育器具庫に重点を置き、物品の管理、整理整頓を徹底した。</p>	<p>かなりの箇所に経年による傷みがあり、こまめな安全点検の継続が必要である。</p>	B		A	
	<p>③ 調理室や被服室など、衛生面や安全面に配慮した教室環境の整備を図る。(家庭)</p>	<p>家庭科調理室が40名が授業を実施できる状況になった。排水設備など、衛生面や安全面に配慮した教室環境になった。</p>	<p>整備された施設を有効利用したい。</p>	A		A	
<p>(3)</p> <p>・附属校として求められる研究テーマを設定し、その取り組みと成果を発信する。</p> <p>・生徒の対外的な成果発表を支援する。</p>	<p>④ 大学との共同研究「科学教育プロジェクト」に関わる基礎研究の実践が期待されるので、環境整備と場の提供に努める。(庶務)</p>	<p>情報機器などを用いた手法などをサポートすることができた。自由研究などで、情報機器やタブレットなどの活用が増えた。</p>	<p>自由研究の学年発表などでは、映像で記憶することで、大きな教育的資産にすることができる。学校全体での理解を促し、定着させる必要がある。</p>	B		A	

6 附属天王寺中学校の平成28年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心を持ち, 透徹した判断力を養う。 強固な意志を持ち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。 他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り, 教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) ・生徒の学力向上と, 自主的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し, 個々の力量を十分に発揮させる。	⑧ 中高の教科における学習内容の連携を図る。(教務部)	各教科において中高合同の教科会議を定期的に行き, 中高の教科内容の連携を図っている。	各教科における教科内容の連携をさらに具体的に進める。	B		A	

<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属校として求められる研究テーマを設定し、その取り組みと成果を発信する。 ・生徒の対外的な成果発表を支援する。 	<p>① 「学びの自立を目指す評価の工夫と改善」を学校全体の研究テーマとして設定し、アクティブラーニングを取り上げ、教科会・公開授業・小中高研究会などで取り組む。教育研究会や研究集録を、日常的な研究の成果の発表の場として位置づける。 (研究部)</p>	<p>外部講師によるアクティブラーニングに関する研修会や教科会による協議、さらに小中高研究会での研修を実施し、これらの成果を教育研究会で公開した。</p>	<p>研究テーマが研究会のためのものに留まり、日常の研究や授業実践とのつながりには至らなかった。また、日々の授業実践を校内で公開する場を設定しているが、時間割等の関係で参観できない状況にある。教員全員で参観できる環境を増やす必要がある。</p>	<p>B</p>		<p>A</p>	
--	--	---	--	----------	--	----------	--

